



京都教区時報



京都教区広報委員会
 (編集長 村上透磨)
 京都教区本部事務局
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁～3頁 -シリーズ召命- どうして神父さまに!! 大塚乾隆神父

3頁～4頁 アッシジの聖フランシスコの霊性と『ラウダート・シ』
 講師 小西 広志師 (フランシスコ会)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
 ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2018年 司教年頭書簡 「エコロジカルな回心」

回勅『ラウダート・シ』の呼びかけ

他者との和解

教皇は次のように呼びかけます。「とりわけ憤慨すべきは、自分は他人より価値があると考える人々を大目に見続ける、わたしたちのただ中にあるとんでもない不平等に関してです。一方では、絶望的で屈辱的な貧しさに陥って出口のない状況に置かれている人がいるのに、他方では、自分の所有物の扱い方を省みることなく、むなしくも見かけの優越性を見せびらかし、皆が同じようにすればこの星が壊れるであろうほど大量の廃棄物を後に残す人がいることを、わたしたちは気づかずにいます。まるでより多くの権利をもって生まれてきたかのように、自分たちは他の人よりもずっと人間らしいと考える人々のことを、実際わたしたちは、依然として大目に見ているのです。」(90)

人はどうしても、自分中心で、なんでもおもしろいままになると考えてしまう傾向に



〈戦争がもたらすもの〉
 亡くなった弟を背負い、
 焼き場で順番を待つ少年。

あります。地球規模でみると、自分の国で手にはいらぬものを、世界中から取り寄せ、好き勝手に使い捨てている人々がいる一方、自分の国で生産した食べものを口にするのができずに、飢餓で苦しんでいる人々がいます。つまり、少数の人々が世界中の食糧を独占し、大勢の人々は生きるために必要な食糧を手にする事ができない状況があります。

エコロジカルな回心のためには、自分たちの今の生活スタイルをあらためることから始めなければなりません。大量消費の生活を続けるかぎり、他者との和解することはできません。

(瀧野正二郎)



シリーズ — 召命 —
どうして神父さまに !!

大塚乾隆 神父



今回は京都教区司祭大塚乾隆神父にお話を伺いました。

(2009年6月〜2010年6月に、掲載したシリーズの続編です)

○は編集子 ●は大塚神父

○ カトリックとの出会いをお聞かせください。

● 幼児洗礼でカトリックの幼稚園にも通ったので、小さい時から教会とは関りがありました。

○ 子どものころのお話を聞かせてください。

● かなり小さく生まれましたが、子どもの頃から今に至るまで、大きな病気にかかることもなく「元気な」子どもです。色々な意味で「元気な」子どもだったと、皆さんがおっしゃっています。

○ 神父様になろうと思われたお話を聞かせてください。

● 一番のきっかけは、二十五年前に河



原町教会で行われた叙階式に参列した時のことで、神学生として慕っていた「お兄さん」の叙階式を見て「カッコいい」と思ったことです。子どもがある職業（野球選手とかお医者さんとか…）に憧れるのと同じように、小さい頃の私にとっては、ミサを捧げる司祭の姿がかっこよかったのです。

○ 神学生になられてからのお話を聞かせてください。

● 「人を通して働かれる神の働きを大切にしたい」と言えばかっこよいですが、基本的に「はい」と返事することを学びました。消極的な「はい」もありましたが、ペンキ塗り・障子はり・庭仕事から始まって色々なことを学びました。今も色々なことを楽しみなが

ら続けています。

六年間の神学院での生活は、特に同級生や仲間たちに助けられました。また教区内外の小教区では、信徒の皆様の優しさと祈りに支えられました。

○ 司祭になってからどうでしたか。

● ミサ・病者訪問・講座を大事にしているうちに時間があっという間に経ちました。予期せぬことも多かったですが、それでも寝込むことなく日々を過ごせたのは、神様が「働きなさい」とおっしゃっているのでしょう。ブロック内での奉仕に際しても、皆様の支えと協力があったことだと思っています。

○ 司祭叙階されて何年ですか。一年と数か月が経ちました。



○ 司祭になられてから、楽しかったことや喜びをお聞かせください。

● 毎日楽しく過ごしています。ミサを捧げられるのが何よりの喜びであり、病者訪問でもこちらが励まされ、力づけられています。イエス様のことやミサについて、幅広い年齢層の方々と学びながら、皆さんがどんどん興味を持っていかれるのも嬉しいです。

○ 今のお気持ちを聞かせください。

● 神学生の時に、「共に笑い、共に泣き、共に喜び、共に悲しみ、共に歩み、共に祈る司祭」になりたいと書いていたのを思い出しました。このような司祭になれるよう、信徒の皆様と共にいる司祭であるよう、これからもお祈りください。



ユスト高山右近列福式
司式 アンジェロ アマート枢機卿
2017年2月7日大阪城ホール

アッシジの聖フランシスコの霊性と『ラウダート・シ』



講師 小西広志師
(フランシスコ会)

福音宣教企画室では、昨年より回勅『ラウダート・シ』の講座を実施してきました。今年は新たな切り口として、『ラウダート・シ』に欠かせないアッシジの聖フランシスコの霊性を手がかりにして、本回勅を読むというテーマで、フランシスコ会の小西師を講師にお呼びし、5月24日に講演とミサを行いました。少しですが内容を紹介します。

『ラウダート・シ』は、特別聖年「神のいつくしみ」の開催を告げる大勅書の発表のすぐ後に発布していることから、「神のいつくしみ」と無関係ではないと考えることができます。その視点でこの回勅の第二章を読んでみると、三つの主

要なテーマが浮かび上がります。一つめは、神が宇宙万物の創造主であること、二つめは、その神のいつくしみに満ちたまなざし、三つめは、この世界にどのよう

に神のいつくしみが満ちているかです。私たち人間はもちろん、宇宙万物すべての被造物が、創造主である神によって造られたという理解はとても大切で、そこから、すべて神がくださったプレゼントだから大切にしていこうという発想が生まれるのです。

そしてこの回勅のキーワードの一つとなるのは「すべてはつながっている」ということです。このつながりを生きたのがアッシジの聖フランシスコでした。ジョットが描いたと言われる「聖フランシスコの生涯」の中の「小鳥への説教」



ジョット「聖フランシスコの生涯」
(小鳥への説教)

を見てみます。この聖フランシスコの小鳥への説教というモチーフは、伝記にもよく登場し、大伝記には「神の聖人」「フランシスコ」は：鳥たちに向かって、あたかもかれらが理性をそなえたものであるかのように、あいさつした」と書かれています。これは、人間と他の被造物の違いを、理性があるかないかで分けて考えていた、当時の思想の風潮とは異なる考え方です。聖フランシスコは、鳥もまた同じ神から造られた兄弟姉妹と考え、「あたかも理性をそなえたものであるかのごとく」接し、一緒に神のこゝろを聞



いていました。この「兄弟姉妹である」「すべてはつながっている」ということがこの回勅の基本です。ですから互いに大切にし合い、とりわけ人間は兄弟姉妹の中で、特に被造界全体に対して責任を持ってかわりましよう」と伝えていきます。

昨年引き続き多くの方にご参加いただき、『ラウダート・シ』への関心の高さを感じていますが、自分で読むのは難しいという声も聞きます。教皇フランシスコは、多くの人が自分に引きつけて読むことができる文章をお書きになることから、自分のわかる範囲で読み、深め、自分の現実と照らし合わせてみてほしいという意図を感じると、小西師はお話になりました。福音宣教企画室ホームページに、昨年の資料も掲載していますのでぜひご利用いただき、いつも「すべてはつながっている」という意識を持ちながら、今後も個人で、また小教区やグループで『ラウダート・シ』を読み、深めていただけたらと思います。

福音宣教企画室



「聖母の夜」行事への参加と聖地巡礼

5月16日～20日「聖母の夜」行事への参加と聖地巡礼に、団長のチェ神父に案内していただき総勢7名で参加しました。

参加者お二人の感想を紹介します。

済州巡礼を終えて

桂教会 中島奈里子

私は、何と幸せ者なんでしょうか。今回で3度目となる「聖母の夜」巡礼に参加させて頂きました。初めて参加した時と同様の感動と感謝を頂いています。今回はチェ神父様を含めて計7名と言うファミリー的人数で前回とはまた違った素晴らしい巡礼となりました。1日目の夜はアボジ学校の方々が夕食に招待して下さい、交流が持てました。2日目はファンサピョン聖地訪問の後、中央教会で姜(カン)司教様と昨年司教になられ



たり「聖母の夜」の行事は4・3平和公園で行われました。何千人と言う濟州をはじめとする韓国の信者の方々と共に御ミサで平和の

ため、友愛のために祈り、その後、皆ロウソクを灯して「ロザリオの祈り」を韓国語で唱えながら公園の周りを行列しました。3日目は「恵みの丘」で自然の中で十字架の道行きをし、鹿や野鳥等にも遭遇しました。お昼には京都教区から昨年帰国され、今は濟州教区で司牧されている夫(ブ)神父様と一緒に昼食を頂き、お互いの今の状況をお話してきました。夜はノヒョン教会の御ミサへ。ここでは昨年夏、京都教区に助祭として研修に来られ、8月に我が家にホームステイされた宋(ソン)神父様と再会できました。宋(ソン)神父様は今年1月に叙階され今はノヒョン教会におられるとお聞きしていたので再会を心待ちにしていました。お別れの時は感極まり涙が流れてしまいました。



最終日、チョジョン教会で御ミサに与り、その後美味しいフルーツを頂きながら神父様、シスター、信者の方々と楽しく交流しました。その後、キムキリヤン聖地へ北村ノブンスンイ4・3慰霊の聖地、そして帰路へ。今回は、やはり「4・3事件」を深く考えさせられ、平和とは何か、友好とは国交とは…と私ながら思

た文(ムン)司教様にお目にかかり、昼食会にご招待頂きました。私は姜(カン)司教様と文(ムン)司教様の間に座らせて頂くことになり、姜(カン)司教様の素晴らしくお上手な日本語でのお話も全く耳に入って来ないほど緊張してしまい、文(ムン)司教様が私たちに下さった司教叙階記念の素敵なお話をただただ見つめておりました。

その後、「4・3平和記念館」を訪れチェ神父様に御説明を頂きながら見学しました。ここを訪れたのも3度目ですが、いつも心が痛くなり悲しい出来事は二度と繰り返されたくない様、忘れない様祈りました。今年は「4・3事件70周年」の年に当たり「聖母の夜」の行事は4・3平和公園で行われました。何千人と言う濟州をはじめとする韓国の信者の方々と共に御ミサで平和の

い悩む巡礼となりました。最後に、巡礼に行く先々で私たちを心から暖かく迎えて下さった濟州教区の方々に心よりお礼申し上げます。また、この巡礼に際してご尽力下さいましたチェ神父様をはじめ、たくさんの方々から感謝いたします。

濟州巡礼と出会いに感謝して

長岡教会 早川 康哉

今回の巡礼でまず感謝したいことは、チェ神父様をはじめ巡礼に参加した皆様との出会いです。皆様なくしてはこの巡礼は無事終了しなかったと思っています。私は皆様は何事も助けていただき無事巡礼を終えることが出来、大袈裟ですが感謝してもしきれない程の恵みを感じていただきました。

次に感謝したいのは私たちが迎え入れ

て下さった済州教区の信者の皆様です。皆様は、自分の兄弟姉妹と同じように私たちを迎え入れて下さいました。2016年にも一度済州巡礼に参加させて頂きましたが、その時も同じでした。これは信仰のなせる事なのでしょう。私にも同じように出来るでしょうか。済州教区の方々が京都に来られたら、私たちも同じように迎えてあげたいですね。

姜(カン)司教様が私達をやさしく迎えて下さり、私の話にも耳を傾けて下さり、以前に一度お会いしたのを覚えていて下さったのにはとても感激致しました。その夜の「聖母の夜」の御ミサでは何千人もの人たちがおられるのに、私たちに最前列の席を確保して下さい、ただただ感謝するばかりでした。例年とは違い、今年は「4・3事件」70周年と言う事で、特別に4・3事件記念平和公園でミサが行われました。例年であれば夜はとても寒いのに今年は寒くもなく、とても良いミサでした。来年はまた寒いのでしょうか。

ロザリオの祈りは私の一番好きな祈りです。韓国語の祈りは一緒には唱えられませんが、ものすごく心に響きます。



きたことでした。(写真中央)

ました。国が違っても信仰は同じと言う事を再認識しました。

もう一つ嬉しかったことは、以前長岡教会におられた夫(ブ)神父様に再会

私の今回の巡礼参加の目的は、①4・3事件の犠牲者の方々の慰霊をすること。②戦前日本が韓国民に与えた苦痛に対する償い。③私に「神の愛」の大切さを教えて下さった夫(ブ)神父様が、済州におられるからです。私はいつも神父様に助けて頂いていましたが、私の都合で教会に通えなくなり、教会での勤めを辞めてしまったのです。私の代わりの人はたくさんおられますが、神父様や信徒の方々に大変ご迷惑をおかけした事は、間違いありません。そんな私を神父様は理解し許して下さいました。

今回の巡礼には神父様への謝罪が含ま

れていたのですが、神父様を前にしますと、今までの感謝の気持ちが先にたって何も言えませんでした。でも巡礼に参加し神父様にお会いできたことで、少しだけですが、これからは以前の様に楽しい気持ちで教会に行けるという気持ちになりました。このような気持ちになれたのは、チェ神父様はじめ、今回の巡礼に参加した方々のおかげだと思っております。私は皆様にも何もしないで差し上げられませんが、皆様から大きな恵みを頂き、感謝以外の何物でもありません。

皆様に主の平和がありますように。



小学生の信仰教育についてのアンケート6

☆教会学校で中心に教えて(おこなっている)ことは何ですか。(複数回答有)

活動内容

クリスマスカード作り、鍊成会、ウォーカーソン、教会訪問、母の日・父

の日のプレゼント作り、待降節のささげ物作り、学校の勉強、バザー、敬老会など教会行事での奉仕、お誕生会、お泊り会

教会学校で教えて (おこなって) いること

聖書	23 (教会)
教理	11
祈り	18
聖歌	8
ミサ奉仕	19
遊び	13
活動	7

☆使用しているテキストは何ですか。

(複数回答有)

テキスト

こじか、うれしい初聖体、みんなの聖書、神様の風によって、典礼とわたしたち、みんなでささげるわたしたちのミサ、子どものカトリック要理、はじめてのキリスト教、絵本・紙芝居、担当司祭作成テキスト、教会学校リーダーの手引き、他
「子どもたちに信仰を伝える」方法に



信仰教育委員会

は決まったかたちがありません。教会学校には、学校のように、決められた教科書も指導要領もありません。何を、どのように教えるのか、どんな教会学校にするのかは、担当者(リーダー)に委ねられているといえます。
子どもの信仰教育のためのテキストは、多数存在します。それぞれの教会学校の状況に合わせて、テキストの選択がなされているようです。
子どもたち、保護者が、教会学校に何を求めているのか：教会学校は子どもたちに何を提供すればよいのか。アンケートの回答から、各教会学校の様々取り組みがうかがわれます。

8月のお知らせ

休講・休会のお知らせ

よく分かる聖書の学び
京都教区 聖書講座
京都カナの会
コーロ・チェレステ 練習
聴覚障がい者の会 学習会



教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛に Fax.075 (211) 3041 か honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※ 10月号の原稿締切り日は8月29日です。

諸団体

京都カトリック混声合唱団

練習：5日④ 14:00/25日④ 18:00 ミサ奉仕後
カトリック会館6階

京都キリシタン研究会

都の南蛮寺跡記念ミサ
日時：26日④ 14:00 ミサ
14:50 研究テーマ発表と分かち合い
15:30 ミニ巡礼 18:00 親睦会
申込み：不要
問合せ：090-2381-4630(古澤)

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー、ケーブル)スカイ A
毎週土曜日 朝 7:45
シリーズ「喜びと平和のうちに」
出演は松村 信也師(イエズス会)
ラジオ(KBS京都) ④～⑤ 朝 5:55
④ 朝 5:15

8月のテーマ「分岐点」

大塚司教の

8月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 7月31日(㊥)-1日(㊥) 第12回 京都教区
カトリック学校 教職員修養会
(河原町教会)
- 4日(㊥) 15:00 第31回 比叡山宗教サミット
「世界宗教者平和の祈りの集い」
- 5日(㊥)-7日(㊥) 教区中学生広島平和巡礼
- 13日(㊥)-20日(㊥) カルメル修道会
幼きイエズス修道院(十勝)訪問

- 23日(㊥)-24日(㊥) 神学生 合宿
- 25日(㊥) 10:00 教区 教会学校教師 研修会
(河原町教会)
15:00 ノートルダム教育修道女会
Sr. 中井愛 誓願式(岩倉)
- 26日(㊥) 10:00 福知山教会ミサ
- 28日(㊥) 11:00 青少年委員会(亀岡聖堂)
- 29日(㊥) 17:00 カトリック学校委員会
- 31日(㊥) 11:00 中央協 列聖推進委員会

青年センター 主催行事「一日企画」

“青年たちが気軽に参加できるように”
というおもいから企画に至った、日帰り
でのイベント「一日企画」。

初めての試みでしたが、京都教区の各
地から青年たちが参加し、楽しんでもら
えたようです。回を増すごとに参加者が
増えており、これからも京都教区を盛り
上げていこうと精が出ます。

第1回「映画『復活』を観よう！」

3月17日(㊥)青年センターで開催されまし
た。

第2回「植物園で、聖書に出てくる植
物を探そう！」5月19日(㊥)京都府立植物
園で開催され、望洋庵で分かち合いをし

ました。

第3回内容・場所未定7月28日(㊥)に開
催予定です。

詳しい情報は青年センターHP、また
は機関紙「じょばに」にてご覧ください。



京都府立植物園

【青年センターHP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな